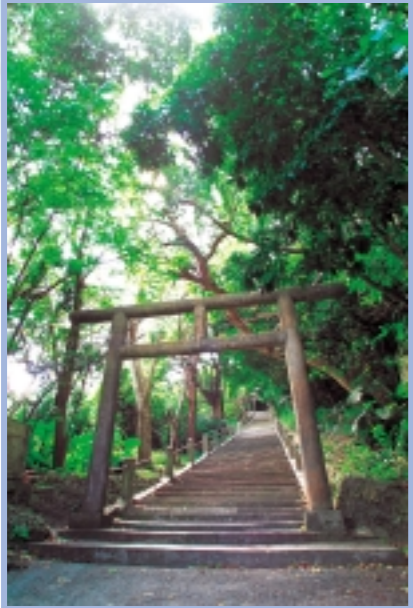


神の信託島

神の信託島

琉球の国つくり神話によらる、
アマミチュー、シルミチューの二神は、
天帝に国つくりを命ぜられ、
琉球の島に降りてきました。
二神は天帝から石や土、
草や木をもらって
人が住めるような土地にしました。
そして、天帝はそこに男女二神を住ませました。



シルミチュー

比嘉の南南東端の森の中に大きな洞穴があります。地元では琉球開びやく祖神、アマミチュー、シルミチューの居住したところと伝えられています。
毎年、年頭拝みには比嘉のノロ(祝女)が中心となって、海浜から小石を一個拾ってきて、洞穴内に安置された壺に入れて拝んでいます。また、洞穴内には鍾乳石の陰石があり、宝の授かる靈石として崇拝され、信仰圏の広い貴重な霊場です。

浜比嘉島の概要
HAMAHIGA ISLAND

浜比嘉島には浜・比嘉の二つの字があります。
島の北西部が浜区(浜集落)、東部が比嘉区(比嘉集落、兼久集落)です。
第1次産業の農業と漁業が主体になっています。

浜 -HAMA-

面積 0.93km²
人口 363人
世帯数 137世帯



※面積、人口、世帯数は
2001年3月31日現在

比嘉 -HIGA-

面積 1.54km²
人口 237人
世帯数 116世帯



※面積、人口、世帯数は
2001年3月31日現在

浜比嘉島はアマミチュー(アマミキヨ)が定住した地として伝えられています。多数ある洞窟は、そのほとんどが拝所です。



浮原島
勝連半島の東方約6.7kmに位置する小さな無人島で、現在は自衛隊・米軍の訓練場になっています。
1987年12月に沖縄県教育委員会によって、「浮原島遺跡」が発見されました。遺跡は、島のほぼ中央に位置する掘り込み井戸の南側に分布しています。採集された土器は、沖縄貝塚時代後期に属するものと考えられます。

INFORMATION

勝連町の位置
沖縄本島中部の東海岸、中城湾と金武湾の間にある勝連半島の南西半分と浜比嘉島、浮原島、南浮原島、津堅島からなります。



勝連町の歴史
先史時代の遺跡は51カ所確認されています。遺跡は半島側では南側に多く、津堅島では海岸部に点在、浜比嘉島には洞穴内遺跡が多くあります。
勝連町10代目・阿麻和利の時代になると勝連は最盛期を迎えます。徳之島や奄美大島、さらに中国や朝鮮との交流も盛んに行われていましたが、中城城主・護佐丸と争いがおこり、後に中山軍に滅ぼされました。勝連間切は明治41年に市町村制の施行で勝連村となり、1980年に町制に移行しました。



浜比嘉島
勝連半島の東方約5kmの海上に位置し、アダン、ススキ、ソテツが山肌を覆う。
面積 2.45km²
周囲 6.6km
最高部 78.7m
地質 泥炭層・琉球石灰岩

沖縄県勝連町教育委員会
〒904-2392 沖縄県勝連町字平安名3047
TEL.(098)978-2227

きむたかの文化財シリーズ 6

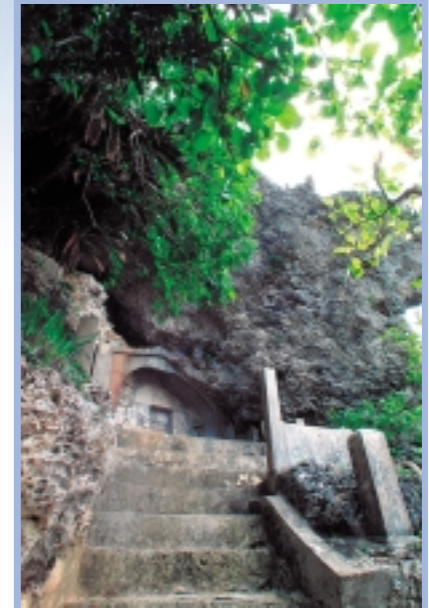


浜比嘉島
HAMAHIGA



かつれん 沖縄県勝連町教育委員会

やがて女神は三人の男子と二人の女子を産み、
長男を王に、二男を按司に、三男を百姓に、
長女を神に仕える女神官のかしら聞得大君に、
二女を村の神に仕える女神官のかしらにしました。
こうして人々の役割が定められ
琉球の歴史がはじまったといわれています。
この琉球の国つくり神話にまつわる伝説や伝説の地が、
私たちの町の浜比嘉島にあります。



アマミチューの墓

比嘉の東方海岸にアマンジと呼ばれる岩屋の小島があり、そこには洞穴を囲い込んだ墓があります。地元では琉球開びやく伝説で有名なアマミチュー、シルミチューの男女二神及び他の神が祀られていると伝えられています。毎年、年頭拝みには比嘉のノロ(祝女)が中心となって島の人々多数が参加して、豊饒・無病息災・子孫繁昌を祈願しています。